

Discussion Paper Series, DP-2016-01

タイトル 北海道庁によるヒグマ生息数の推定値の批判的検討

著者名 山上俊彦

発行年月 2016年11月

北海道庁によるヒグマ生息数の推定値の批判的検討

山上 俊彦

日本福祉大学経済学部

要旨

北海道庁が2015年に公表した「科学的手法に基づくヒグマ生息数」はヒグマ生息数が爆発的に増加しているという結果となっている。この計算機実験に基づく推定結果について検討を加えたところ、断片的情報を基にしたシミュレーションであり、生息数の水準の根拠が希薄であること、生息数が安定する環境収容力が考慮されていないといった問題点があること、推定値の幅が広く信頼性の低い推定値であるということが判明した。ここで公表された生息数を基にヒグマの保護管理政策を推進した場合、北海道のヒグマは絶滅への道を辿ることが予想される。北海道のヒグマ保護管理計画は目標と手段の関係が調和していない政策であり、総捕獲数管理は個体数管理と本質的に変わらない補殺一方の政策である。北海道は政策の基本思想を根本から改める必要がある。

Key words : 保護管理計画、計算機実験、自然増加率、環境収容力、総捕獲数管理